

≪生物多様性に関するこれまでの取組について≫

2050年度までに目指すべき姿

■市民生活や事業活動、行政活動等のあらゆる場面において、生物多様性への配慮が浸透・定着している世界。

市川の自然環境

■古くから田畑がつくられ、東京湾の海の幸とともに、「人と自然のつながり」のある生物多様性豊かな里山里海の自然環境が作られてきた。

■後に、都市化に伴い里山里海の多くが住宅地や工場に変わり、人々の生活様式も変化する中でも市民との協働による保全活動などにより市内の各所に貴重な自然が残されている。

いちかわ戦略の概要

【基本理念】

■「自然と自然」「文化と文化」「人と人」「自然と文化と人」のつながりを形成することによって、生物多様性の保全再生と持続可能な利用を進めていく。

【目的】

■市川市総合計画に掲げた将来都市像の「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」を子どもたちの未来に引き継いでいくため、生物多様性の保全と持続可能な利用について、総合的かつ計画的に推進していけるように定めるもの。

【計画期間】

■2014年度～2050年度

【目標】

■短期目標(2020年度まで⇒2025年度に延長)

- ・生物多様性への配慮を市の施策に浸透させます。
- ・市民、事業者など様々な主体との協働により、生物多様性についての理解を深めていきます。

■中期目標(2025年度まで)

- ・国・県・近隣市と連携し、あらゆる公共事業に生物多様性についての配慮を反映させます。
- ・市民、土地所有者、事業者等あらゆる主体の行動に生物多様性いちかわ戦略を反映させます。

■長期目標(2050年度まで)

- ・市民生活、事業活動、土地利用、国、県、市の行政活動等のあらゆる場面に生物多様性への配慮が浸透し、定着しています。
- ・基本理念に記述した「自然と自然」「文化と文化」「人と人」「人と自然と文化」のつながりが形成されています。

これまでの国と市川市の動き

年度	国の戦略	市川市の取組
H7(1995)	生物多様性国家戦略①	
H14(2002)	新生物多様性国家戦略②	
H18(2006)		市川市自然環境保全再生指針
H19(2007)	第三次生物多様性国家戦略③	
H20(2008)		河川遊水地等水生生物実態調査
H21(2009)		
H22(2010)	生物多様性国家戦略(2010)④	
H24(2012)	生物多様性国家戦略(2012-2020)⑤	
H26(2014)		生物多様性いちかわ戦略策定 【現計画】
H30(2018)		真間川水系等水生生物調査
R3(2021)		2020年までの短期目標の評価(環境審議会)
R4(2022)		
R5(2023)	生物多様性国家戦略(2023-2030)⑥ (参考資料)	令和5年度第一回環境審議会

2050年度までの生物多様性いちかわ戦略策定スケジュール(案)

